

これまでのコロナ感染事例より（1）

<概要>

- ・感染していたAさんから、勤務先の同じ作業室で作業をしていた3人に感染
- ・作業室では全員マスク着用、感染防止対策も万全だった。
- ・しかし、昼食は窓を閉じた別室で歓談しながら食べていた。
- ・この昼食の際に感染が起こった可能性が高い。

★感染拡大防止のポイント

- ・マスクをしない食事時は感染リスクが高い。
- ・食事中は、できるだけ話をしないようにしよう。
- ・歓談するのは食事後に。必ずマスクを着用しよう。
- ・暖房と組み合わせて、定期的に換気しよう。

これまでのコロナ感染事例より（2）

<概要>

- ・大学生のBさんが親の実家に帰省して1週間過ごした。
- ・しかし、Bさんは無症状ではあるが感染していたため、親に感染した。
- ・Bさんは健康そのもので、家族も「まさかコロナに感染していたとは」と驚いた。

★感染拡大防止のポイント

- ・自分や身近な人に風邪のような症状があるときは、帰省を控えよう。
- ・若い人は、感染しても無症状のことが多いので、大切な家族に感染させないために、帰省前2週間は、飲み会などの会食を避けよう。 1

これまでのコロナ感染事例（3）

<概要>

- ・飲食店のボックス席で4人で2時間程度の会食をしたが、その中の1人が感染者だったため、残りの3人に感染した。
- ・大声での会話はしていなかったが、人と人の間隔は近かった。
- ・注文はタッチパネル方式だった。

★感染拡大防止のポイント

- ・席を詰めて座るのを避けよう。
- ・会食は長時間にならないように。
- ・タッチパネルやトイレのノブなどの共用部分を触ったら、手指消毒を忘れずに。

県内のクラスター事例で認められた課題の例

- ① 職員の中で、咽頭痛や倦怠感等を訴えるものがいたが、症状が軽いため医療機関受診をせずに出勤を継続し、記録もつけていなかった。後日、新型コロナウイルスの検査を受け、複数の職員で陽性が判明した。
- ② 食堂では、窓を開けるなど換気に気をつけていたが、同じ勤務帯の人が揃って食事し、食事中はマスクを外した状態で会話していた。後日、複数の陽性者が判明し、他の人も濃厚接触者として自宅待機となった。窓側の席の人に陽性者はいなかった。
- ③ 職員の中で陽性者が判明、職員の多くが濃厚接触者となり、事業の継続に支障を来した。
- ④ 福祉施設において、マスクを着用しない人に接した後、その人が陽性であることが判明した。自分はマスクのみを着用していたが、眼の保護（フェイスシールドやゴーグルの着用）をしていなかったために濃厚接触となった（後日、自分も陽性であることが判明）。

県内のクラスター事例からの提言 (新型コロナ対策で大事なポイント)

◎平時から行うこと

- ・職員が**体調不良時に休める体制づくり**
- ・職員に濃厚接触者・陽性者が発生した場合に備えた、**事業継続計画（BCP）の作成**
- ・職員・施設利用者の**体調管理**（毎日の記録）
- ・**手指衛生**の徹底
- ・**マスクの着用、個人防護具の適切な使用**
(例：マスク着用できない人と接する場合には、眼を保護できるようにフェイスシールドやゴーグルの着用を検討する)
- ・個人防護具などの**備蓄・使用状況の確認**
- ・食堂や更衣室などで**マスクを外しての会話を控え、工夫して使用する**（例：時間をずらす・距離をとる）

◎発生時に行うこと

- ・保健所や指定者との**緊密な連携**
- ・**感染予防対策専門家チームとの早期からの連携**